「テレビ・ビデオ」

1. 子どもの生活におけるテレビ、ビデオの位置づけ

この章では子どもに着目している。テレビは、子どもの生活のなかで、重要な位置を占めている。

・接触時間量にみる、子どものテレビとのかかわり

小・中・高校生のテレビの視聴時間は、2時間31分、2時間1分、2時間4分であり、国民全体の値、3時間51分に比べ、1時間以上短い。視聴時間の傾向は、ここ20年間ほど安定した状態である。マスメディア接触時間の中で圧倒的に多いのはテレビである。

・視聴の中心は娯楽番組

子供たちの家庭でのテレビ視聴は、娯楽系番組が中心であり、ニュース・報道系や教育・教養系の番組は、人気の面では、上位に登場していない。

・友達とのコミュニケーションにおけるテレビの役割

子どものテレビの視聴の率直な理由は「おもしろい番組を楽しみたい」である。

テレビが友達とのコミュニケーションにおいて重要な意味をもっている。これは、小学生の友達との会話の内容を調べた結果から、テレビは多くの子ども達から回答されている。また、幼児の場合においても、ごっこ遊びの形で、テレビ視聴の経験が共有されている。

・情報源としてのテレビの評価

情報源としてのメディアの効用という観点で調査したところ、多岐にわたる観点で、テレビの評価が高いことがわかった。硬軟さまざまな情報源として、気分転換のためのメディアとして、テレビが子どもの生活のなかで、大きな位置を占めていた。

・家族コミュニケーションにおけるテレビ

家族コミュニケーションにおけるテレビの役割に注目。家族が一緒にする行動という観点から見た場合、テレビ視聴は、重要な意味をもっているといえる。また、会話の素材や共有の場を提供するものとして、テレビが大きな役割を果たしている面もある。

・学校におけるテレビ、ビデオ利用

日本では、テレビの学校などの教育現場の利用向けに、さまざまな種類の教育番組が放送され、活用されてきた。

これからは、学校向けのテレビ教育番組とインターネットを組み合わせた、新しい時代の教育サービスの開発をめざす試みも活発になっており、「進化するテレビ」として新たな機能への期待も高まっている。

2. 子どもの成長にとってのテレビの役割

子どもの発達・成長を願う送り手についての、重要な特徴がある。

・社会の現実を直視するテレビ番組

90年代から、貧困や戦争など、世界の子子ども達が置かれている厳しい社会の現実を直視する番組を重視する傾向がみられる。また、ニュースや時事問題を取り上げる子供向けの番組に力を注ぐ国が増えた。たとえば、『セサミストリート』など。

・傷つきやすい子どもの心を考える番組

友達によるいじめ、親からの虐待の問題など、深刻なテーマを取り上げる子ども向けのドキュメンタリーやドラマ番組が増えている。ひとりで悩みつづけるのではなく、解決の糸口を見つけるヒントとなる情報やアイデア提供の機会を与えることが可能な点において、テレビが果たしうる役割は重要だといえる。

・制作プロセスに子どもが参加する番組

より本質的な部分で、子ども自身が番組の内容や制作プロセスに、多面的にかかわりをもつようになっている番組が、近年注目されてきている。例として、日本の『真剣10代しゃべり場』、ニューヨークの『In the Mix』や、イギリスの公共放送 BBC の『As Seen On TV』などがある。

・米同時多発テロ時に発揮されたテレビの機能

米同時多発テロは、さまざまな観点からテレビというメディアを注目する機会となった。事件を伝える映像描写が及ぼす心理的影響をめぐる問題も、子どもへの配慮、社会全体への配慮という点から、クローズアップされた。事件をめぐる子どもの心のケアを考えるための番組や、子ども自身が、年齢に応じた事態への対処をポジティブな方向で見出していくための情報やアドバイスを提供する番組を放送するなど、テレビが、同時に多くの人々にメッセージを伝える機能をもつマスメディアとして、素早い対応をみせた。

3. 今後のテレビ、ビデオ活用をめぐって

・子どもが期待する新時代のテレビ

子どもが期待する新時代のテレビの機能としては、自らの好みや意思で選択し、自分の都合に合わせて番組を視聴して、同時にインターネットからの関連情報をも入手できるものである。

・教育サービスにみるテレビの新たな活用

学校での利用を前提にした教育番組サービスの分野では、新しい時代のテレビを想定した試みが始まっている。それは、例えばインターネットを使うサービスである。自宅での楽しみのためでも、学校での学習においても、新たなテレビの機能を生かす可能性は広がりそうだが、そこで重要な意味をもつのは、番組の中身と、子ども自身のテレビに対する姿勢であるといえる。

・メディアの理解、情報の判断、自らのメディア表現

これからの子ども達は、テレビやビデオとどのように向き合っていくことが重要なのであろうか。きわめて重要であるといえることは、「メディアの特徴をよく理解したうえで、メディアが発信する情報、メッセージを主体的に読み解き、自らの分析・判断で活用し、またメディアを用いて自分の考えを表現し、人々とのコミュニケーションをはかるといった、主体性のある力」を育てていくことである。この能力を「メディアリテラシー」といい、このメディアリテラシーの育成は、幅広いメディアにおいて、重要なテーマである。